

アイフル 株式会社

証券コード 8515

Vol.40
June 2016

アイフル通信

第39期 期末報告 2015.4.1 ▶ 2016.3.31



 AIFUL CORPORATION

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度の熊本地震により被災された皆さまへ謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

♥ 2016年3月期の業績について

消費者金融業界を取り巻く経営環境は、大手各社の積極的な広告展開などにより、新規成約件数は引き続き好調に推移しており、営業貸付金残高においても着実に回復しております。一方、業界最大の事業リスクである利息返還請求においては、ピーク時から着実に減少しているものの、未だ不透明感が続いております。

このような環境のもと、当社グループは、テレビやWEBを中心とした効果的な広告宣伝に加え、無人店舗の出店やスマホ支店(スマートフォンサイト)のリニューアルなど、お客様の利便性の向上に取り組んでまいりました。

また、2015年8月には金融支援が終了しており、今後の財務基盤の強化に向け、更なる事業効率の向上や資金調達が多様化に努めております。

2016年3月期における営業収益は、前期比13億円増(同2%増)の877億円となり、10期ぶりの増収となりました。営業貸付金残高が前期末比262億円増の3,762億円となったことなどに伴い、営業貸付金利息収入が前期比5億円増の442億円となっております。このほか、クレジットカード事業にかかる信用購入あっせん収益は147億円、金融機関向け保証などにかかる信用保証収益は125億円となっております。

営業費用につきましては、前期比449億円減(同36%減)の810億円となりました。減少の主な要因は、利息返還関連費用が前期比608億円減の29億円となったことによりです。

その他の営業費用につきましては、金融費用が78億円、貸倒関連費用が161億円、一般管理費などのその他営業費用が542億円となりました。

以上の結果、営業利益が66億円、経常利益が68億円、親会社株主に帰属する当期純利益が70億円となりました。

♥ 2017年3月期の計画について

未だ経営の最重要課題である利息返還請求については先行き不透明であるものの、営業貸付金残高や割賦売掛金残高などの営業アセットにつきましては、来期も引き続き増加を見込んでおります。

営業収益においては924億円と、前期比47億円の増収となる一方、営業費用が営業アセットの増加に伴う貸倒関連費用や人件費の増加により854億円、前期比43億円増となる見込みです。

以上の結果、営業利益が70億円、経常利益が70億円、親会社株主に帰属する当期純利益が68億円を計画しております。

今後におきましても、経営の最重要課題である利息返還請求へ対応しつつ、新規成約件数並びに営業貸付金残高の拡大によるトップラインの増加を図ります。また、早期に実力黒字化を目指し、すべてのステークホルダーの皆様のご期待にお応えできるよう、全力を尽くしてまいります。

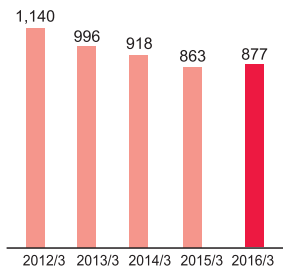
株主の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年6月
代表取締役社長



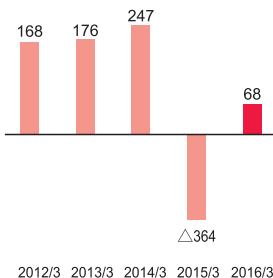
営業収益

(億円)



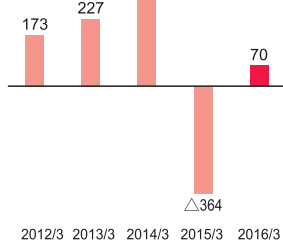
経常利益 (損失)

(億円)



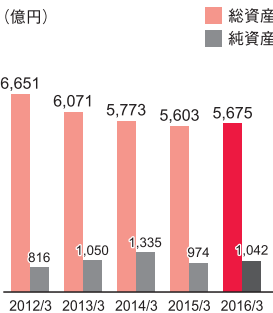
親会社株主に帰属する
当期純利益 (損失)

(億円)



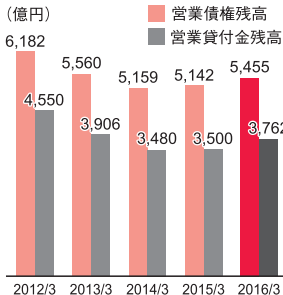
総資産・純資産

(億円)



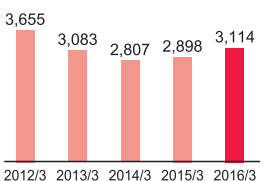
営業債権残高
(営業債権ベース)

(億円)



有利子負債残高

(億円)



有利子負債残高は、オフバランスとなった流動化債権を含んでいます。

ローン事業

グループの中核事業であるローン事業につきましては、お客様の資金ニーズに迅速に対応する商品の開発・販売や、効果的な広告宣伝に努めております。その結果、新規成約件数や貸付量が順調に推移し、当期末における営業債権ベースの営業貸付金残高は3,762億円(前期末比7%増)となり、順調に回復しております。(債権の流動化によりオフバランスとなった営業貸付金606億円(うち無担保ローンは344億円)が含まれております。)

<無担保ローン事業>

無担保ローン事業につきましては、テレビやWEBを中心とした効果的な広告宣伝に加え、無人店舗の積極的な展開により、新規申込件数が38万8千件(前期比14%増)、新規成約件数が18万件(前期比18%増)となりました。

その結果、当期末における連結の無担保ローンにかかる口座数は82万1千件(前期末比5%増)、営業債権ベースでの残高は3,066億円(前期末比12%増)となり、無担保ローンの増加が営業貸付金の増加に大きく寄与しております。

信用保証事業

信用保証事業につきましては、個人及び事業者の与信ノウハウや独立系の強みである「柔軟性とスピード」を活かし、各金融機関のニーズに応じた与信の提供や新商品の提案を積極的に行い、保証残高の拡大に努めております。当期末における営業債権ベースでの支払承諾見返残高は734億円(前期末比1%減)となりました。

クレジットカード事業

クレジットカード会社であるライフカードの包括信用購入あっせん事業につきましては、アフィリエイト広告の積極展開などにより新規入会申込の拡大に取り組むとともに、利用限度額増額を推進するなど、入会や利用促進に向けて取り組んでまいりました。

その結果、当期におけるカード会員数は629万人(前期末比4%増)、カード買上額は6,369億円(前期比9%増)となっており、営業債権ベースでの割賦売掛金残高は901億円(前期末比7%増)となりました(債権の流動化によりオフバランスとなった割賦売掛金9億円が含まれております)。



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

【資産の部】	前期	当期
	(2015年3月31日現在)	(2016年3月31日現在)
流動資産	509,377	536,021
現金及び預金	52,590	39,910
① 営業貸付金	287,650	315,546
割賦売掛金	84,332	89,202
営業投資有価証券	688	546
② 支払承諾見返	111,472	111,634
買取債権	2,190	2,854
その他	19,220	19,520
投資損失引当金	△ 9	△ 5
③ 貸倒引当金	△ 48,757	△ 43,188
固定資産	50,946	31,493
有形固定資産	17,678	17,690
無形固定資産	2,575	3,161
投資その他の資産	30,692	10,641
資産合計	560,323	567,514

(注)記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しています。

① 営業貸付金

アイフルの無担保ローン残高の増加を主な要因として、会計ベースの営業貸付金残高は前期末比279億円増(同10%増)の3,155億円となりました。なお、流動化による調達のために営業貸付金の一部をオフバランスとしております。

② 支払承諾見返

各金融機関のニーズにあった与信の提供や新商品の提案を積極的に行っており、保証残高の拡大に努めております。また、オフバランスとした営業貸付金(流動化債権)に対する保証を含めた、会計ベースの支払承諾見返残高は前期末比1億円増(同0.1%増)の1,116億円となりました。

③ 貸倒引当金

貸倒引当金は、当期において、貸倒損失の発生分215億円(うち、利息返還請求にかかる債権放棄は49億円)を引当金から取り崩した一方、161億円の繰入れを行った結果、前期末比55億円減(同11%減)の431億円となりました。

なお、利息返還請求にかかる債権放棄の引当金は、前期末比49億円減(同28%減)の124億円となり、利息返還請求以外の貸倒引当金は、前期末比6億円減(同2%減)の307億円となりました。

(単位:百万円)

【負債の部】	前期	当期
	(2015年3月31日現在)	(2016年3月31日現在)
流動負債	222,869	237,151
支払手形及び買掛金	10,158	12,209
支払承諾	111,472	111,634
短期借入金	51,460	67,990
1年内償還予定の社債	25,000	—
1年内返済予定の長期借入金	7,713	22,318
④ その他	17,065	22,999
固定負債	239,978	226,112
社債	28,800	31,400
長期借入金	113,982	127,351
⑤ 利息返還損失引当金	93,405	63,438
その他	3,791	3,921
負債合計	462,848	463,263
【純資産の部】		
株主資本	96,608	103,609
資本金	143,401	143,415
資本剰余金	164,469	13,914
利益剰余金	△ 208,152	△ 50,609
自己株式	△ 3,110	△ 3,110
その他の包括利益累計額合計	128	△ 195
新株予約権	738	836
⑥ 純資産合計	97,475	104,250
負債・純資産合計	560,323	567,514

④ 有利子負債

資金調達の多様化を進めた結果、有利子負債が前期末比221億円増(同10%増)の2,490億円となりました。なお、債権の流動化による調達金額を含めた平均調達金利は前期比0.43pt減の2.77%となっております。

⑤ 利息返還損失引当金

利息返還損失引当金は、当期において、利息返還金328億円(前期比9%増)を利息返還損失引当金から取り崩した一方、ライフカードの足元の請求件数を踏まえ29億円の繰入れを行っております。その結果、利息返還損失引当金残高は、前期末比299億円減(同32%減)の634億円となりました。

なお、利息返還請求にかかる債権放棄の引当金124億円と合わせて、利息返還損失関連の引当金総額は、前期末比349億円減(同32%減)の758億円となりました。

⑥ 純資産

純資産は、当期において70億円の親会社株主に帰属する当期純利益を計上したことにより、前期末比67億円増(同7%増)の1,042億円となりました。



(単位:百万円)

	前期 (2014年4月1日から 2015年3月31日まで)	当期 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)
⑦ 営業収益	86,352	87,708
営業貸付金利息	43,761	44,255
包括信用購入あっせん収益	13,548	14,591
個別信用購入あっせん収益	128	115
信用保証収益	11,381	12,491
その他の金融収益	14	7
その他の営業収益	17,516	16,246
営業費用	125,914	81,032
⑧ 金融費用	8,606	7,780
⑨ 貸倒関連費用	2,234	16,126
⑩ 利息返還関連費用	63,733	2,897
⑪ その他の営業費用	51,339	54,227
営業利益又は損失(△)	△39,562	6,676
⑫ 営業外収益	3,133	220
営業外費用	70	35
経常利益又は損失(△)	△36,498	6,860
⑬ 特別利益	645	—
特別損失	—	—
税金等調整前当期純利益又は損失(△)	△35,853	6,860
法人税、住民税及び事業税等	584	179
法人税等調整額	61	△363
⑭ 親会社株主に帰属する当期純利益又は損失(△)	△36,499	7,044

(注)記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しています。

⑦ 営業収益

営業収益は、前期比13億円増(同2%増)の877億円となりました。営業貸付金利息収入においては、営業貸付金残高の増加に伴い前期比5億円微増(同1%増)の442億円となりました。このほか、クレジットカード事業における包括信用購入あっせん収益は前期比10億円増(同8%増)の146億円となり、保証事業における信用保証収益は前期比11億円増(同10%増)の125億円となりました。

⑧ 金融費用

金融費用は前期比8億円減(同10%減)の78億円となりました。当期は調達手段の多様化に努めた結果、有利子負債残高は増加したものの、前期に発生したADR終結に伴う費用などの一時的な金融費用が発生していないためです。

⑨ 貸倒関連費用

前期に115億円の利息返還に伴う債権放棄引当金の戻入れを行ったため、貸倒関連費用が前期比139億円増(同622%増)の161億円となりました。

⑩ 利息返還関連費用

ライフカードの足元の請求件数が低位ながらも横ばいで推移していることを踏まえ、29億円の利息返還損失引当金繰入を行っております。アイフルにおいては、前期に637億円の大幅な繰入れを行っており、当期に利息返還関連費用は計上しておりません。

⑪ その他の営業費用

その他の営業費用は前期比29億円増(同6%増)の542億円となりました。集客にかかる費用においては、テレビやWEBを中心とした積極的な広告宣伝を行ったことにより、広告宣伝費が前期比1億円増(同5%増)の36億円、販売促進費が前期比19億円増(同34%増)の74億円となり、合計は20億円増(同23%増)の111億円となっております。

⑫ 営業外収益

前期にライフカードで28億円の為替差益を計上しましたが、当期においては大きな変動要因は計上しなかったため、前期比29億円減(同93%減)の2億円となりました。

⑬ 特別利益

前期に債権買取益3億円、有価証券売却益3億円を計上しましたが、当期においては計上しておりません。

⑭ 親会社株主に帰属する当期純利益

以上の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は70億円(前期は365億円の当期純損失)となりました。

※「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成25年9月13日)に掲げられた定め等を当期から適用し、当期純利益の表示の変更を行っております。



(2016年3月31日現在)

(単位:百万円)

	前期 (2014年4月1日から 2015年3月31日まで)	当期 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)
⑮ 営業活動による キャッシュ・フロー	18,503	△ 31,674
⑯ 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 6,385	△ 3,043
⑰ 財務活動による キャッシュ・フロー	△ 26,588	22,002
現金及び現金同等物に係る 換算差額	179	△ 12
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△ 14,290	△ 12,728
現金及び現金同等物の 期首残高	66,876	52,586
現金及び現金同等物の 期末残高	52,586	39,906

(注)記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しています。

⑮ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業貸付金や割賦売掛金の増加及び貸倒引当金や利息返還損失引当金の減少などにより、316億円(前期は185億円の回収)の資金を使用しております。

⑯ 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形及び無形固定資産、投資有価証券の取得による支出などにより、30億円(前期比52%減)の資金を使用しております。

⑰ 財務活動によるキャッシュ・フロー

借入金返済や社債償還を借入による収入が上回ったことなどにより、220億円(前期は265億円の使用)の資金を得ております。

会社概要

商号	アイフル株式会社(AIFUL CORPORATION)
本社所在地	京都市下京区烏丸通五条上る高砂町381-1
創業	1967年(昭和42年)4月
設立	1978年(昭和53年)2月
資本金	1,434億150万円
代表者	代表取締役社長 福田 吉孝
社員数	1,433名(連結)
店舗数	896店
ホームページ	http://aiful.jp

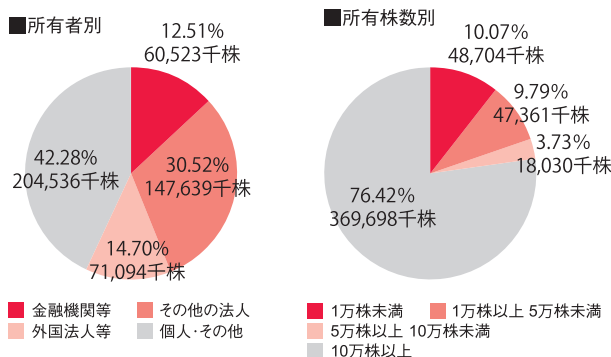
株式構成

発行可能株式総数	1,136,280,000株
発行済株式総数	483,794,536株
(内、自己株式)	916,890株
株主数	39,622名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社AMG(福田吉孝一族の資産管理会社)	94,814	19.60
福田 光秀	62,155	12.85
株式会社丸高(福田吉孝一族の資産管理会社)	24,543	5.07
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	16,663	3.44
日本マスター・トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	14,231	2.94
HSBC-FUND SERVICES CLIENTS A/C 500 HKMPF 10PCT POOL	10,666	2.20
MSCO CUSTOMER SECURITIES	5,003	1.03
CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	4,005	0.83
BNY GCM CLIENT ACCOUNT J PRD AC ISG(FE-AC)	3,547	0.73
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	3,438	0.71

株式分布図





株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、 あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および 特別口座の 口座管理機関 同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-782-031

インターネットホームページURL

<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

単元株式数	100株
公告方法	電子公告
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
銘柄コード	8515

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

アイフルグループのホームページでは、会社情報、サービス内容、IR情報など最新の情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



アイフルIRウェブサイト

<http://www.ir-aiful.com/>

アイフル株式会社

<http://www.aiful.co.jp/>

ライフカード株式会社

●クレジットカード・法人カード

<http://www.lifecard.co.jp/>

●プリペイドカード V-Preca

<http://vpc.lifecard.co.jp/>